

栃木県の介護福祉ニーズについて

県内介護福祉施設との連携による 新たな介護福祉機器の開発

令和8(2026)年7月

○介護福祉業界を取り巻く現状

- ▶ 高齢人口の増加等により、介護福祉業界の需要は増加傾向にある。
- ▶ 一方で、生産年齢人口の減少等を背景とする介護福祉への従事者の増加は限定的であり、人材不足が懸念される。
- ▶ 限られた人数で専門性の高い介護サービスを提供しなくてはならない現状に対応するため、**テクノロジーを活用した生産性向上**を課題としている。

○テクノロジー活用に向けた支援

- ▶ テクノロジー活用支援のため、介護福祉現場向けの設備導入補助金を実施されている。
 - ・ **栃木県介護テクノロジー定着支援補助金（R6～）**
- ▶ 厚生労働省が定める種類の品目については、申請することで製品を福祉用具情報システム（TAIS）へ掲載可能。
- ▶ 更に、介護テクノロジーとして認可される事で、**補助金の対象として取り扱うことが可能になる**

県内介護福祉現場と連携し、御社の技術を活かした
新たな介護福祉機器の開発に取り組んでみませんか？

○ T A I S 記載機器類の例

- ▶ 福祉用具情報システム（T A I S）は、公益財団法人テクノエイド協会が運営する、全国の福祉用具に関する情報提供システム。
- ▶ 一般的に想像される介護福祉用品のほかにも、介護福祉の現場で活用できる様々なものが掲載されている。



○サイドテーブル類
食事の介助等の際に使用



○再加熱キャビネット
多数の食事をまとめて、
ほどよい温度に加熱・保温できる



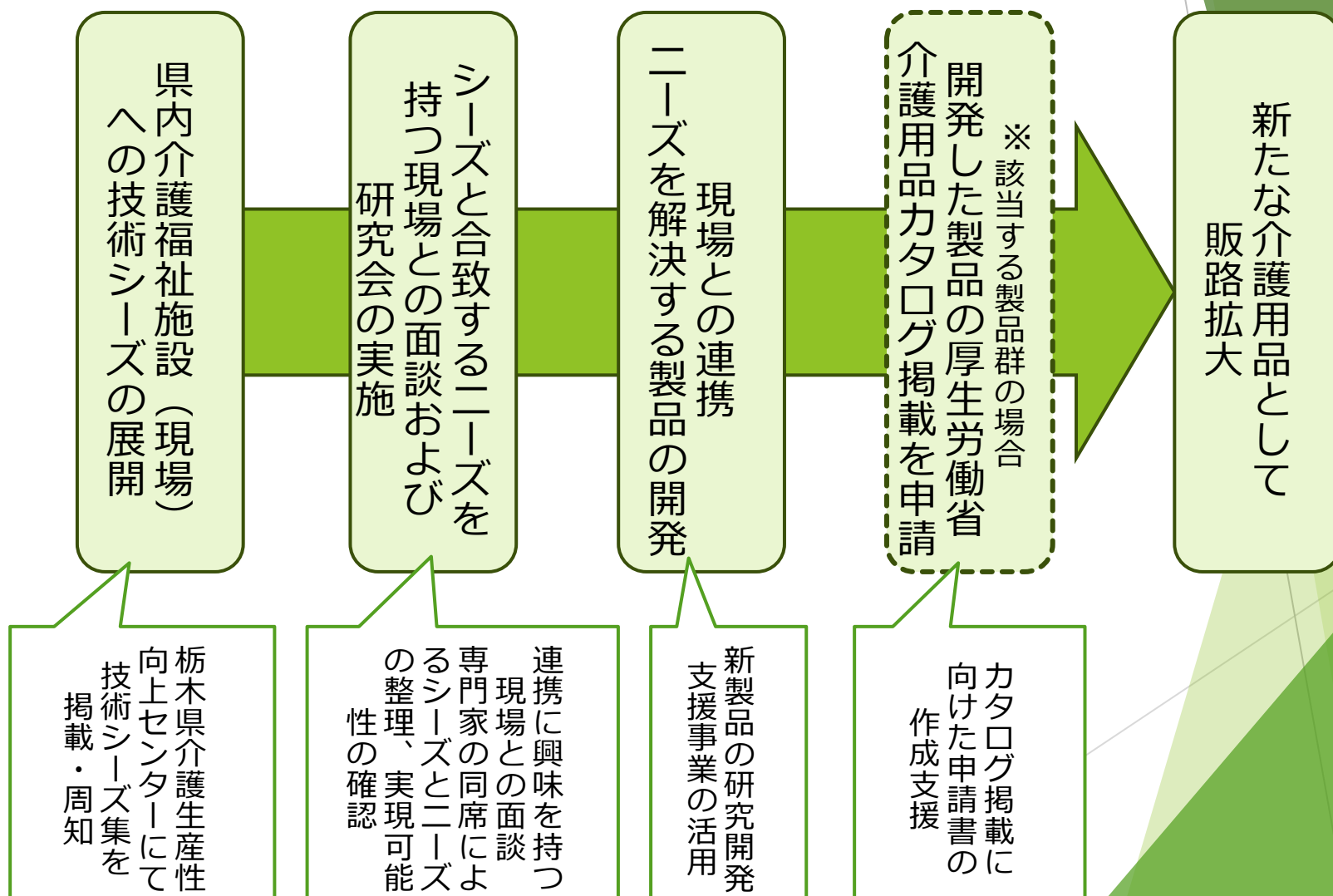
○食器類
保温性の高い食器、掴みやすい、
食べ物を取りやすい形状の食器等

意外と身近な技術や製品の活用が期待出来ます。
お時間があれば、一度TAISを覗いてみてください！

福祉用具情報システム（TAIS）のページはこちら→



○本事業による介護福祉機器開発のロードマップ



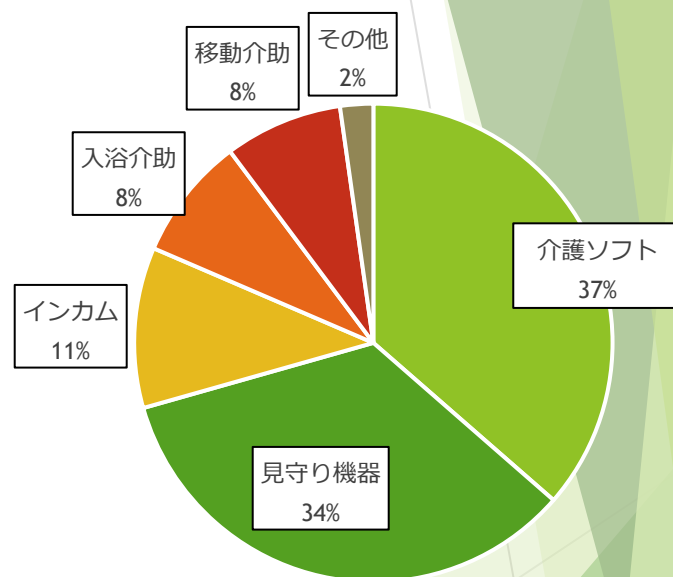
栃木県内の二一ズの概要

○栃木県介護テクノロジー定着支援補助金の申請傾向

- ▶ R6,R7年度の介護テクノロジー定着支援補助金では、介護情報の記録事務等の効率を高める「**介護ソフト**」や、入居者・利用者の状態の確認を補助する「**見守り機器**」の割合が多い
- ▶ 介護従事者間の情報共有を助ける「**インカム**」設備の導入や、身体的負担の大きい作業を軽減する「**入浴介助**」、「**移動介助**」設備の導入も目立つ。
- ▶ 導入による業務の省力化効果が高い設備が人気。

栃木県介護テクノロジー定着支援補助金

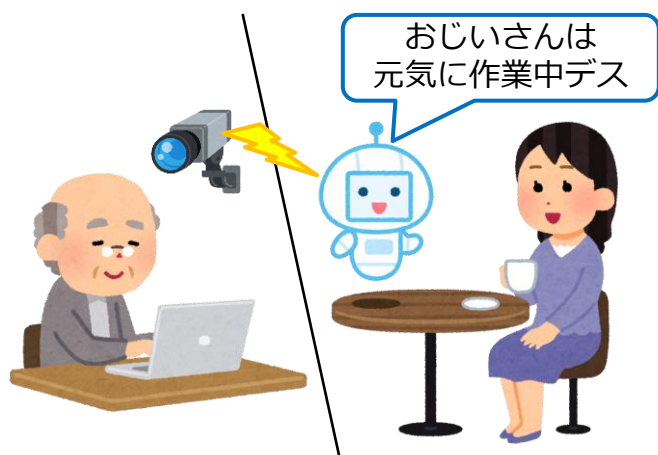
申請内容内訳（R6,R7年度計※）



※申請の内、装置の導入に関する内容を抜粋
1事業者による複数内容の申請も含む

○介護福祉機器ニーズの例

(1) 見守りセンサ、D X 機器類



AI搭載カメラ等



ベッド下センサー、
マットセンサー等

- ▶ カメラや各種センサを活用した見守り機器など
- ▶ 介護従事者の見回り等の負担を軽減できる
- ▶ 入居者の健康状態の確認や、転倒・体調急変の検知など
- ▶ インターネットを活用して離れた場所の状況確認も

○介護福祉機器二ーズの例

(2) 移動・移乗等介助機器



介護用リフト・移乗機器



立ち上がり支援機器



手すり等

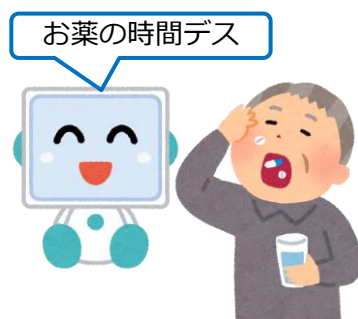
- ▶ ベッドから椅子への移乗や、移動のサポート機器
- ▶ 体重全体を支えるリフトから、立ち上がりなど一部の動きをサポートする機器、歩行補助のための手すりなども
- ▶ 入浴介助等に特化した補助機器も

○介護福祉機器ニーズの例

(3) 生活動作支援機器



介護用自助具



服薬管理補助



食器などの道具

- ▶ 食事をしやすい食器や机などの家具
- ▶ 服薬などを管理・補助する機器等
- ▶ 身の回りの生活を支援する道具など